

第3回『遠野の観光を考えるワーキング』

- 日 時：令和4年7月29日（金） 午前10時15分～午後1時
- 会 場：市役所本庁舎中会議室B・C
- 議 題：①遠野市観光基本計画検討プロジェクトについて
②サステナブルツーリズムについて
③市長との意見交換
- 出席者：多田一彦市長（③から参加） 杉村亮、水谷（REVIC）、三浦芳昌、河内正好、田村淳一
樋口恵、富川岳、多田陽香、田村隆雅（③から参加）、荒井明広、阿部順郎
事務局：観光交流課 宮田秀一、小松ひかる
観光協会 阿部和美

①遠野市観光基本計画検討プロジェクトについて

杉村氏の振興により会議を進め、その内容については以下のとおりである。

《資料説明：杉村亮》

○経緯を振り返り（P2）

- ・観光組織の立ち上げについて
- ・司令塔が必要、マネジメント、モニタリングが必要、自立する団体が必要などの意見があった。

○今回の検討事項（P3）

○観光に取り組む目的・意義（P4）

①地域経済の活性化

②まちづくりの総仕上げ

※観光庁事業「サステナブルツーリズム」プロジェクトと連携して推進

○地域の観光消費を構成する要素（P5）

○全体の進め方（P6）

- ・現段階の想定/夏が繁忙期なため頻繁に会議はできないがその中で進めたい。

○3C分析のフレームを活用（P7）

- ・conmany（自社・自分たち） competitor（競合） customer（市場）
- ・今回の場合だと必要なのは自社分析
- ・遠野市の観光に関する諸状況がどうなっているのかを分析して行く必要がある

この後は、担当者REVIC水谷さんより説明

《資料説明：水谷》

○観光に関する遠野市の概要について説明（P14以降を参照）

《阿部順郎順郎》

H19の観光推進計画はやるべきことはわかっているが「やっていない」というのが課題であり、観光推進体制の構築が必要。

《田村淳一》

カッパ淵がすごい入込数になっているのが以外だった。

《多田陽香》

道の駅みやもりもかなりの入込数がある。

《杉村亮》

- ・カッパ淵も減ってきている。
- ・ここ3年くらい高清水の入込が増えている。
- ・遠野市は、繁忙期と閑散期の差が激しいため、オフピークの対策も必要だと考える。

《田村淳一》

5月、8月の入込が多いのは休みが関係しているか？

《杉村亮》

その通りだと思う。日本という国の休みの習慣が変わらない限り、5月、8月がピークというのは変わらない。

《杉村亮》

- ・インバウンドの活用・オフピークの活用も考えたい。
- ・人材の雇用が問題であり、閑散期と繁忙期のどこに併せるかが難しい。他地域だと他に修行に行かせるなどあるが、高年齢の従業員だとそれも難しい。

《資料説明：水谷》

○消費額単価について (P27)

《杉村亮》

観光客が遠野市で消費する金額は岩手県の中でも低い・岩手県は全国の中でも低い

《河内正好》

どのくらいまで増やせるか？

《杉村亮》

県内平均までは上げていきたい。5つの要素 (P5参照) の中の何を増やしていくのか、筋道を作って行かなくてはいけない。

《資料説明：水谷》

遠野市産業概要 (P28)

《田村淳一》

観光客は遠野単体でくるのではないと思う。どこから遠野に来てどこに行くかなどのデータはあるか。

《杉村亮》

現状ではその資料はない。それに近いものを県で出しているが、あまり精度の高いものではない。

《田村淳一》

他の自治体に来る人を遠野にも連れてくる戦略 花巻・平泉と広域の話とか大きくなってくる。

《水谷》

まさにP49を参照 花巻に向かっている宿泊を遠野に持ってくるなどが重要。花巻に泊まってその後に遠野に泊まるようになるといい。

遠野に観光にきても、また盛岡や花巻に戻って宿泊するとか

《田村淳一》

遠野に泊まってから沿岸に行くという流れがある。沿岸部と協力して、遠野-沿岸の連携を進めていくのもいいと思う。

《杉村亮》

遠野と沿岸部の動きも広まるとよい。

三陸の分析をやっていたが、沿岸で宿泊する人の満足度が高く、理由は食のようだった。

ただ、沿岸には民宿か小さいホテルしかないし、震災、防災が観光のテーマになっているため、そこに興味がない人へ向けてブランディングを変えていく必要があると考える。

《多田陽香》

観光消費額について 湯河原や、他の地域の日帰りの消費額はどのくらいか知りたい。

《水谷》

調べてみます。

《杉村亮》

湯河原だと温泉地なので宿泊単価が高い。

《三浦芳昌》

温泉は強いよね。

遠野には温泉がない。

日本の原風景などはどこでもあるため、これという武器が欲しい。

《水谷》

遠野に来てみての感想は、お金を落とす場所がない。お金を使う場所がわからない。かつばおじさんの話がおもしろい。もっとお金を稼げる。情報がわかりにくい。遠野物語とかが好きな人には良いが、逆に情報が多すぎて発信が難しい。

《杉村亮》

「これだー!!!」という何かにしぼって発信できたらよい。

《三浦芳昌》

道を聞かれた時などの対応など、他の地域では観光教育とかはされているか？

《水谷》

遠野のまちづくりに市民参加がされている感じがあるし、伝承園あたりでは観光ボランティアの方など、ちゃんと案内されている感じ。遠野でスタイリッシュな対応が良いのかどうかということもある。エリアにはエリアの距離感とかあって良いかと思う。

《資料説明：水谷》

○観光まちづくりに関連する各種データについて（P31以降）

《杉村亮》

インバウンドについて、私が遠野に来たあたりは、コロナ禍であったためあまり分かっていない。

《田村淳一》

遠野の過去のデータはインバウンドの数が少なすぎて参考にならない

《阿部順郎》

コロナ前は台湾が多かった。

《資料説明：水谷》

現状のまとめ（P51を参照）

《杉村亮》

エリアプラットフォームでスタンプラリーを行っている。どのような経路で観光客が動いているのかは次回の会議で。

《杉村亮》

ビール・ホップを目的とした統計はありますか

《田村淳一》

遠野醸造の来店者数などは出るかと思う。7月は2019年と比べて1.2倍くらいになっている。最近、雑誌やメディアでビールなどの取材が多い。

《阿部順郎》

遠野物語のコンセプト設計が出来ていない。

《杉村亮》

遠野物語のわかりやすい入口があるとよい。

《富川岳》

カップがわかりやすいのに、カップ淵へ行ってもお金を落とす場所がない。キーホルダーも遠野で作られていない。

《杉村亮》

風の丘のお土産ランキング1位わかりますか？かもめの玉子です（笑）商品開発をしないといけない。最近、ホップソーダも1位になりつつある。

《三浦芳昌》

郷土料理も難しい。「きのこを食べたい！」というものの考え方も必要。遠野はこれだというものが必要！！だんごをつくるのがうまい人など、なかなか表に出てこないなど。

《杉村亮》

伝承園で新しい定食を作ったが、観光客にあまり出ていない。精査していきたい。

《阿部順郎》

どべっこ祭りの料理は、あの場所で食べるから美味しいというのものもある。ただの食にはしていない。

《三浦芳昌》

沖縄の郷土料理はゴーヤ。

《杉村亮》

遠野の夕顔はよいのでは？市内の人には当たり前、市外の方には珍しいというのが良い。

《多田陽香》

遠野の何を使っているとかがわかれば買ってもらえる。朝、夕顔が玄関においてあるなども実はプレミアムなところ（遠野ならでは）

②サステナブルツーリズムについて（観光庁R4年度持続可能な観光推進モデル事業）

《資料説明：多田陽香》

別紙資料5部

○サステナブルツーリズムを取り入れる意義

○釜石市の取組み

○遠野市で採択を受けた事業について

○GSTCサステナブルツーリズム研修開催について（10/11～10/13予定）

《杉村亮》

ぜひ10月の研修にみなさま参加して頂きたい。

《水谷》

今後認証されたらどのようなになるのか？

《多田陽香》

毎年何かチェックを受けるとかではない。

《杉村亮》

3日間通して参加出来ない場合はどうなるか。

《多田陽香》

参加に関しては、部分的でもいいので、参加していただきたい。

《宮田秀一》

次回のワーキング会議は8月末頃に設定したい。調査分析、現状の課題の調整を行いたい。

③市長との意見交換会

杉村亮氏より多田市長に3回目までのワーキング会議の進捗状況を説明

○メンバーから出ている意見として

- ・組織にビジネス感覚のある人が必要
- ・行政からある程度自立した組織となるべき など。

○プロジェクトの概要を説明

- ・基本構想（7-9月）
- ・基本計画（10-12月）その後→実行

○観光に取り組み目的・意義について

- ・5つの要素「交通」「宿泊」「飲食」「物販」「体験」について説明

《多田市長》

- ・観光推進に対する要件を今と対比して何が足りないかを検討し、明確なゴールを決めていく必要がある。まずは、予算を考えないで検討していく。
- ・不足な部分はやる、推進して現実化する。
- ・今年取組について、後半の3か月は実態とか体制とかを見えるようにし、そこにアクションプランを落とし込んでいく。

- ・観光だけでなく来年度の当初予算で、駅前から中心市街地の環境づくりに1億円くらい入れていき、不足があれば、補正予算を入れていくなどの環境への投資をやらなければならない。
- ・遠野は消費が少ないというところだが、まずは、安く安くという考え方をやめる。安くだとサービスも中途半端になってしまうため、必要などころにしっかりとお金をかける。
- ・必要な予算をつけていくことを見極めていくことが必要。
- ・まず分析をして、資金がたりないのはどこかなどを洗い出す。プレイヤーがやりやすい環境をつくる。
- ・ワーキングでも環境を整備することも検討していただきたい。(ハード&ソフトの環境整備)
- ・例えば、観光協会に市から補助をしているが、実際にすべきことを整理すると足りないということになるかもしれない。一回勝負できる体制づくりが必要となる。
- ・空き店舗の問題についても、しっかりと踏み込んでいき原因を把握し、解決していく必要がある。行政の立場ではやりづらいところを、いろんな組織の関わりが必要となってくる。
- ・障がい者についても考えてほしい。ユニバーサルタウンを名乗るならばそこへの取組が必要。
- ・出来るだけ民間に動いて頂き、市がサポートしていくという考え。
- ・空き店舗の活用について、失敗したらどうしようとする。あんまり頑張りすぎないで、「借金するようなどころまではやるな」と言いたい！失敗しても次の人にバトンタッチする気持ちで、空き店舗を解消していくイメージ。「必死にやるな！」と言いたい。
- ・土地や相続の問題があるのであれば、それに対応するためのファンドを1億くらい市で持つておくくらいしないと進まないし、手遅れになってしまう。
- ・一般社会の様々な絡みあっていることを解決していくためには、民間の中でのテクニカルな話もしていけないと解決できない。それをやっていけるのが「まちづくり」。
- ・投資は必ず必要なことであり、それにはビジネスライクな考えが必要。行政でも必要などころにしっかりとお金をかけていく。ダラダラした行政はしたくない。
- ・観光協会なりDMOが機能していかななくてはならない。いいものをつくりましょう。

《水谷》

京都で山地酪農をやっていた。牛が山を食べ過ぎた。はげ山になってしまった。今は那須でやっている。

《多田市長》

牧野組合が出資して山地酪農の牧場をつくりましょうといったが、却下された。肉を売れるように加工販売もやっていきたい。

